

宇治川、日下川における 流域治水の具体的な取組について



令和7年1月8日

高知県





① 宇治川流域での取組

(1) 宇治川流域の特徴

- 宇治川流域は、仁淀川の洪水位より地盤が低く、仁淀川から離れるほど低くなる低奥型地形。
- 本川の背水による影響を受けやすく古くから頻発する内水被害に悩まされてきた。

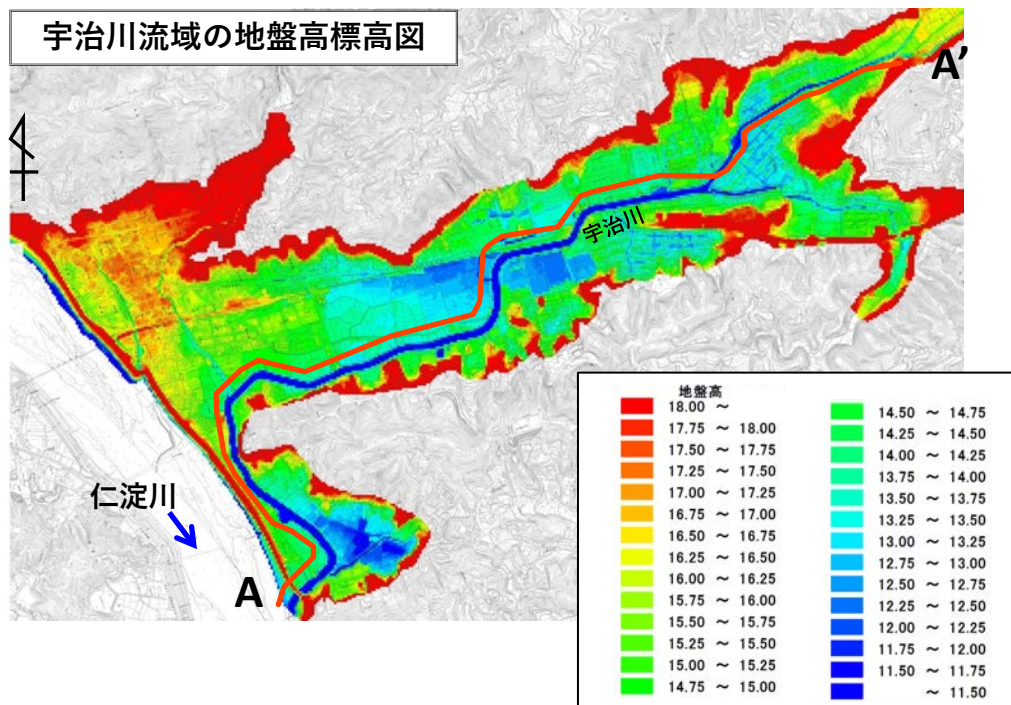
| 過去の主な水害 | 浸水家屋 |
|-------------|-------|
| S50年8月台風5号 | 2724戸 |
| H5年11月豪雨 | 209戸 |
| H26年8月台風12号 | 256戸 |



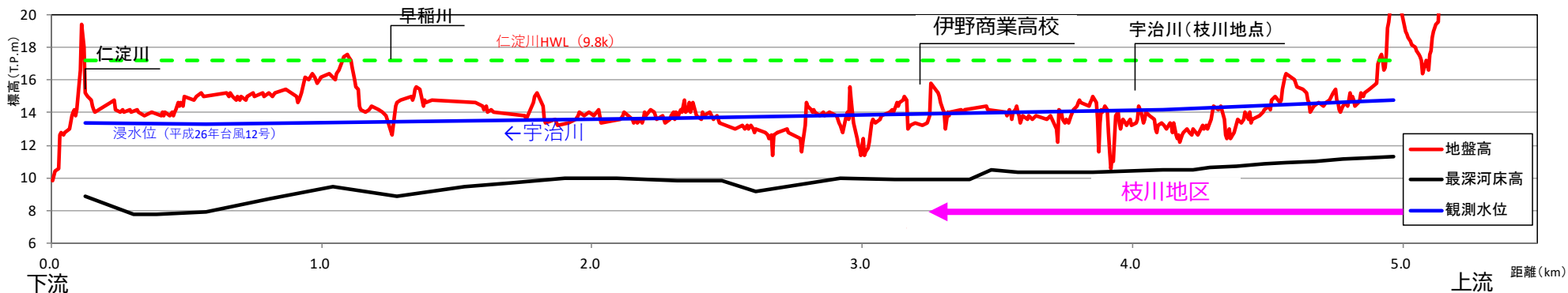
昭和50年 8月浸水状況



平成5年11月浸水状況

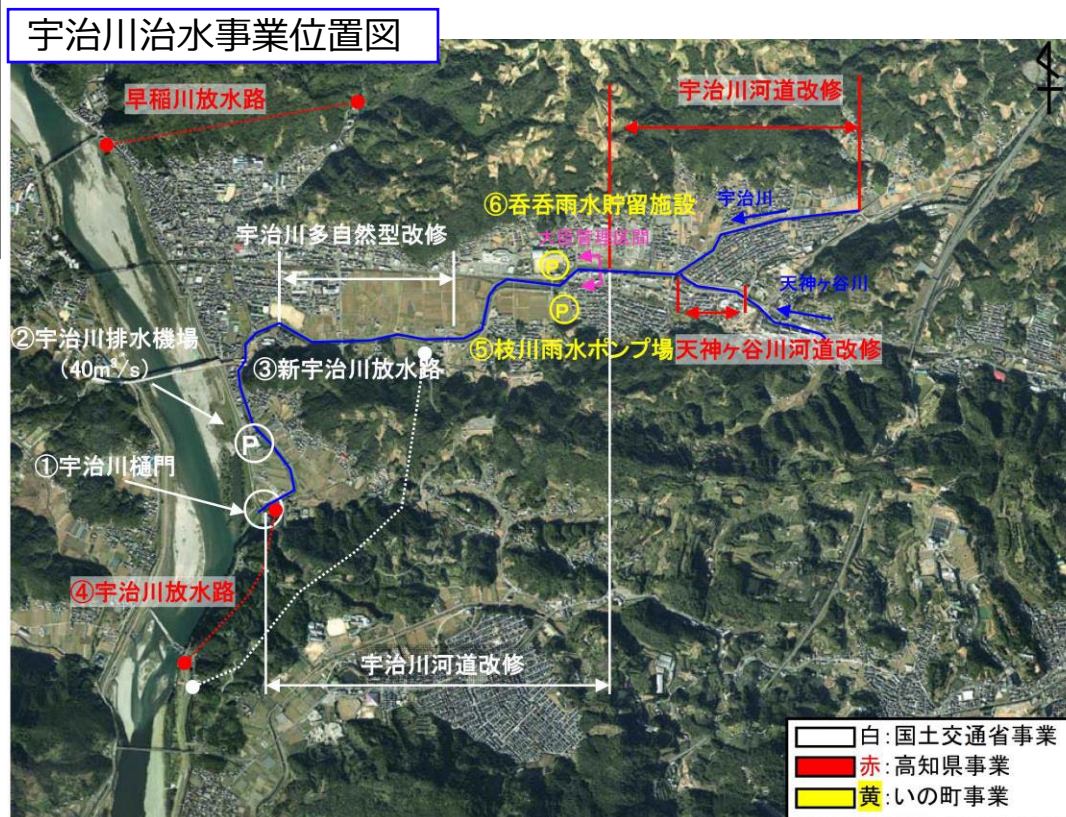


宇治川流域の地盤高(A-A')



(2) これまでの治水対策

- 南海地震に伴う地盤沈下対策事業により、宇治川放水路(県・昭和41年度)を整備。また、昭和50年度までに、宇治川樋門(国・昭和41年度)、宇治川排水機場(国・昭和50年度)を整備。
- その後、昭和50年や平成5年の浸水被害を受け、宇治川排水機場の増設、新宇治川放水路の新設(国・平成18年度)及び支川も含めた河道拡幅を実施。
- また、いの町として、^{どんどん}呑呑雨水貯留施設(平成3年度)、枝川雨水ポンプ場(平成7年度)を整備。



(3) 平成26年8月台風12号による浸水被害

- 8月2日～3日にかけて、台風12号の影響により、2日間で751mmの降雨を記録。
- 流域では浸水面積30.2ha、床上・床下浸水は256戸におよび、交通機関が長時間運休(JR土讃線:約54時間、路面電車:約27時間)するなど、甚大な被害が発生した。

■ 宇治川流域における浸水被害の状況



(5) 高知県による天神ヶ谷川の改修

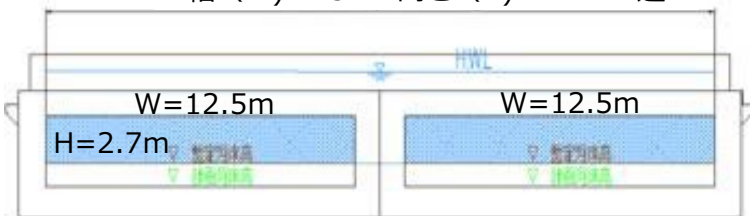
○ 宇治川の支川天神ヶ谷川の流下能力が不足する区間において、国道横断部の函渠整備、堤防及び護岸の整備、河道の掘削等を実施。

- 事業期間 平成27年度～令和5年度
- 工事内容 函渠（水圧函路）整備、河道掘削、築堤護岸
- 総事業費 約4.7億円



① 国道交差部

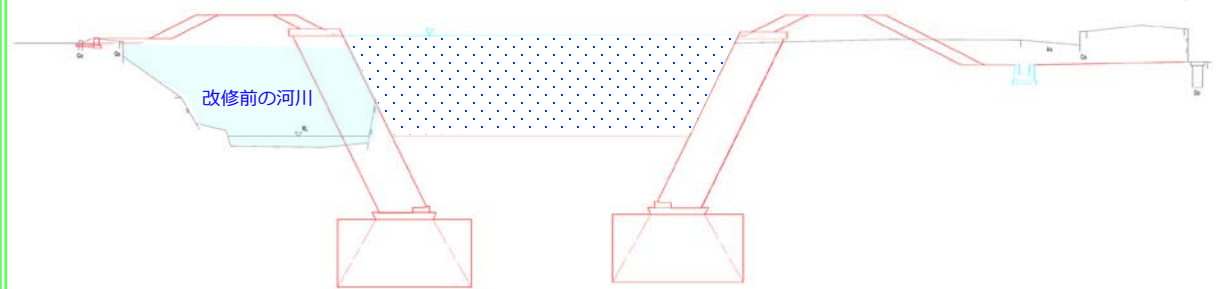
幅 (W)12.5m×高さ (H)2.7m×2連



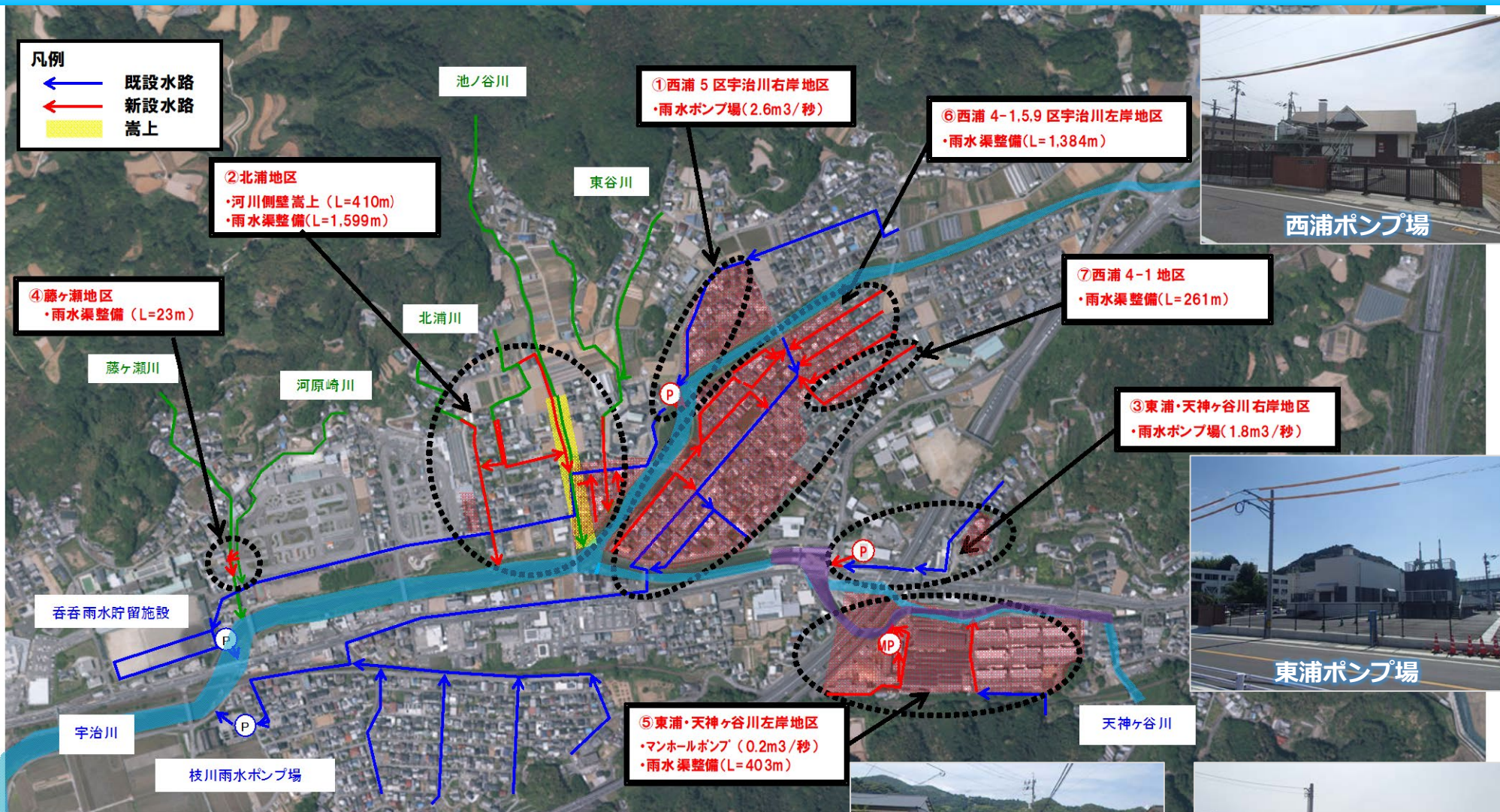
② 県営住宅付近

(県営住宅側)

(県道)



(6) いの町による内水対策



| 総事業費 | 事業実施 | 対策概要 |
|-------|-------------------------------------|---|
| 約21億円 | H27 事業計画変更 H28 設計委託 H29～R6 工事 | 雨水ポンプ場 2箇所 マンホールポンプ 1箇所 雨水渠整備 L=3,670m 河川側壁嵩上 L=410m |



(7) いの町による土地利用等に関するルールづくり

- 平成26年台風12号と同規模の洪水が発生した場合において床上浸水被害を発生させないようにハード対策と合わせて土地利用等に関するルールづくりを実施

土地利用に関するルール

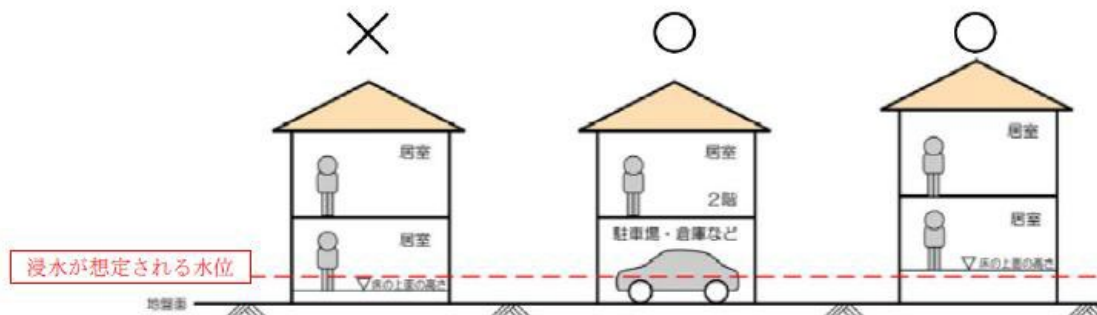
- 伊野町宇治川流域盛土指導要綱（S62.10施行）※に則った盛土規制や代替措置（貯留施設等）に関する指導を実施 ※現在は「いの町宇治川流域盛土指導要綱（H27.10施行）」



貯留施設の設置例（サニーアクシスイの店）

新たな建築に関するルール

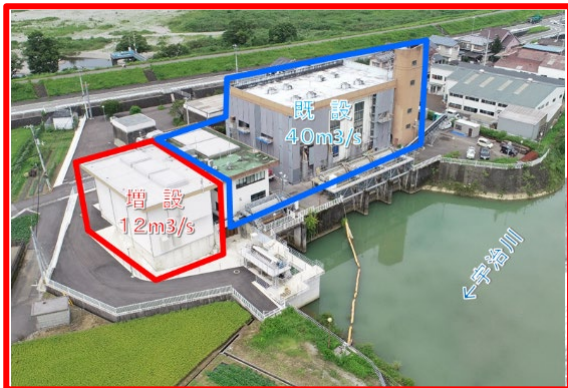
- ハード対策と整合を図り、浸水が想定される危険区域及び水位などを設定し、居室の床高を規制する条例を整備（R3.3制定、R4.4施行）



(8) 国土交通省による宇治川床上浸水対策

国土交通省では、「宇治川総合内水対策計画」に基づき、宇治川排水機場のポンプを12m³/s増設(40→52m³/s)した。

A 国による仁淀川本川への排水機能の向上



国による「排水機場の増設」、県による「支川天神ヶ谷川の河川改修」、町による「都市下水道施設の整備」、「雨水ポンプ場の整備」などが完成したことで、平成26年8月台風12号と同規模の豪雨に対し床上浸水を解消。

平成26年洪水による被害
 床上浸水 142戸
 床下浸水 114戸



- 工事期間 H27. 4月～R1. 3月
- 工事内容 排水機場ポンプ増設
- 事業費 約19億円



主原動機・減速機



ポンプ

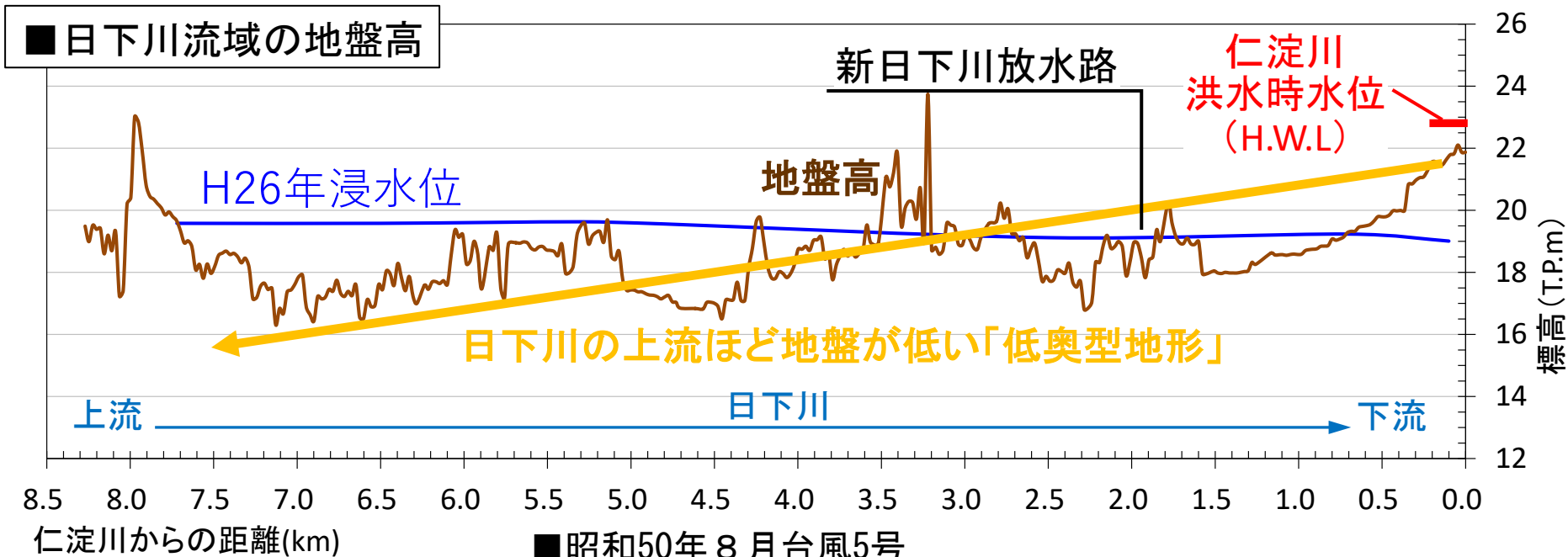
宇治川排水機場のポンプの増設(40→52m³/s)(国)



② 日下川流域での取組

(1) 日下川流域の特徴

- 日下川流域は、上流に行くほど地盤が低くなる「低奥型地形」であり洪水が流れにくく氾濫しやすい。
- 洪水時には仁淀川の水位の方が日下川の水位よりも高く、仁淀川が逆流。
- このため、「日高村の歴史は水害との戦いの歴史」とも言われ、過去から幾度となく水害が発生。



■ 昭和50年 8 月台風5号

| 過去の主な水害 | 浸水家屋 |
|-------------|------|
| S38年8月台風9号 | 201戸 |
| S50年8月台風5号 | 780戸 |
| S51年9月台風17号 | 597戸 |
| H26年8月台風12号 | 159戸 |



(2) これまでの治水対策

○日下川では、『とめる』、『ためる』、『ながす』の3つの対策に古くから取り組んでいる。

- ・『とめる』： 神母樋門(国・S62完成) ※明治20年に建設されて以降、被災と復旧を繰り返し現在の樋門となる
- ・『ためる』： 岡花調整池(県・H10完成)、馬越調整池(県・H22完成)
- ・『ながす』： 派川日下川(県・S36完成)、日下川放水路(国・S57完成)



(3) 平成26年8月台風12号による浸水被害

○H26年8月2日～3日にかけて、台風12号の影響により、日下川では2日間で690mmの降雨を記録。
○日高村では浸水面積274ha、床上・床下浸水159戸におよび、国道33号は約18時間通行止め、JR土讃線は約70時間運休するなど日高村のみならず地域経済にも甚大な影響を及ぼす。

■日高村における浸水被害の状況

| | |
|------|------------------------------------|
| 浸水面積 | 274.4ha |
| 浸水家屋 | 159戸 (床上109戸、床下50戸) |
| 交通障害 | 国道33号:約18時間 通行止め JR土讃線:約70時間 運休 |

本郷地区



冠水したJR土讃線



日下川放水路呑口の様子



沖名地区



JA集荷場



馬越地区



建設中の村の駅ひだか

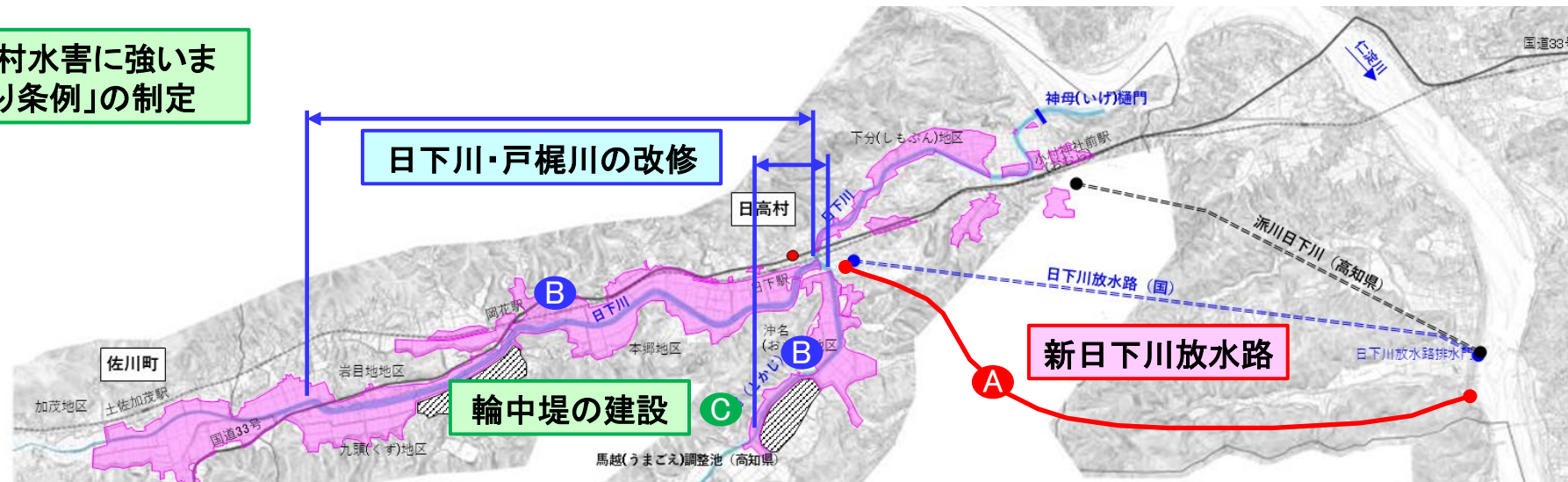


(4) 床上浸水対策特別緊急事業

○平成26年8月台風12号と同規模の豪雨に対して床上浸水を防止するため、H27年度、床上浸水対策特別緊急事業を採択・着手。

○国は新日下放水路の建設、県は日下川・戸梶川の改修、村は輪中堤の建設と条例の制定に取り組むことで、国、県、村が連携し、ハード対策・ソフト対策を一体的に推進。

「日高村水害に強いまちづくり条例」の制定



A 国による3本目となる放水路の建設



B 県による日下川・戸梶川の改修



C 村による輪中堤の建設(擁壁の新設・嵩上げ)



C 村による「日高村水害に強いまちづくり条例」の制定

- ①居室の床高の規制
- ②雨水の貯留・浸透機能の保全
- ③洪水の遊水機能の保全

(5) 高知県による日下川・戸梶川の改修

○日下川・戸梶川の治水安全度を向上させるとともに、放水路トンネルまでの洪水の導水効果を向上させるため、放水路から上流の日下川・戸梶川の河川改修を実施。

■事業箇所

床上浸水対策特別緊急事業
日下川 L=4,400m



床上浸水対策特別緊急事業
戸梶川 L=2,050m

■事業期間

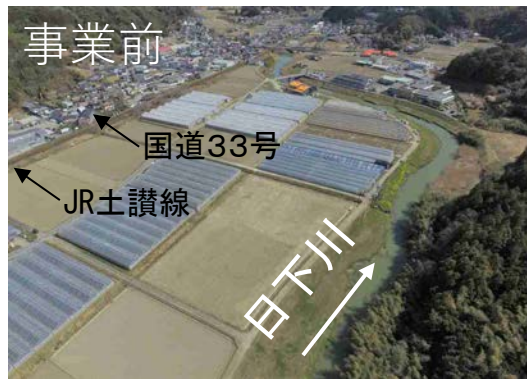
H27年度～R4年度

■工事内容

河道掘削、築堤護岸

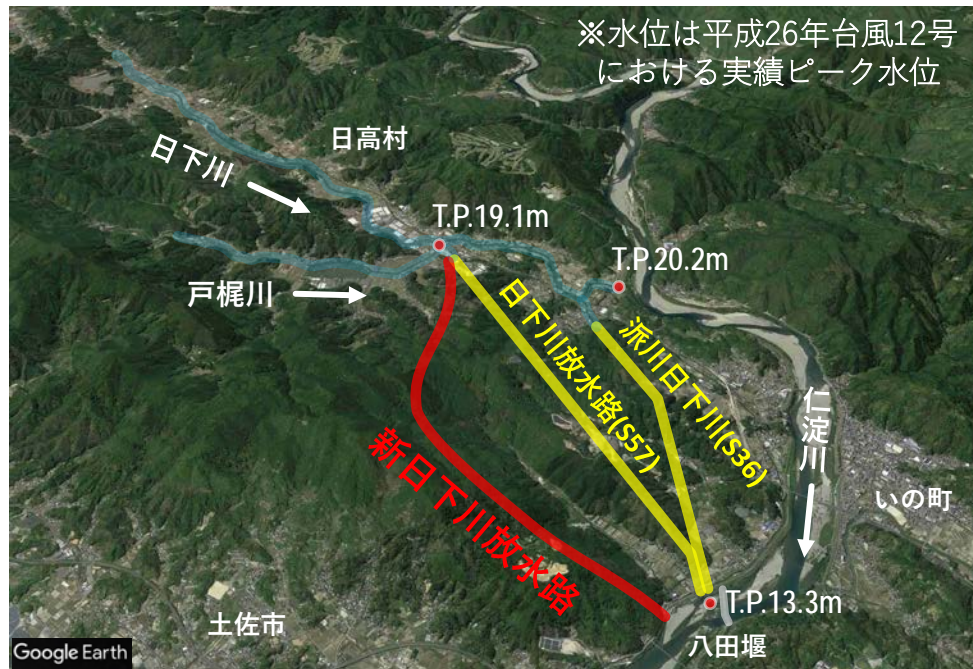
■総事業費

約42億円

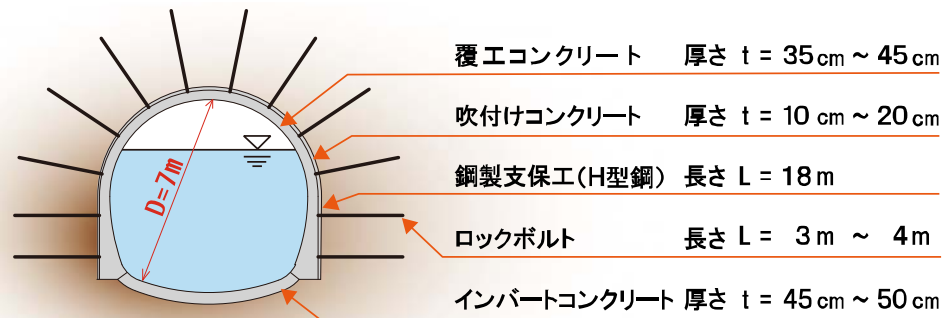


(6) 新日下川放水路の概要

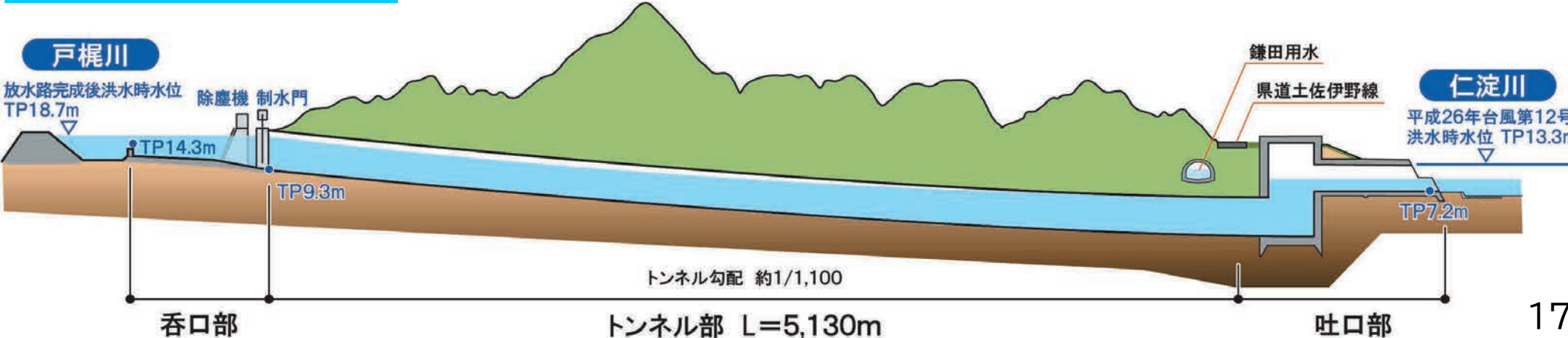
- 新日下川放水路は、全長5,368m(うちトンネル部は5,130m)、直径7m、最大放流量は約130m³/s。
- 日下川では3本目、仁淀川水系では6本目となる自然流下方式の放水路トンネル。



- 工事期間：平成30年1月～令和6年3月
- 工事規模：トンネル部 5,130m
 呑口部 200m
 吐口部 38m
- 事業費：約257億円



■新日下川放水路 模式図



(7) 日高村による輪中堤の建設、まちづくり条例(土地利用規制)

- 国・県の対策後にも残る局所的な床上浸水家屋を解消するため輪中堤を建設。
- ハード対策が進む一方、無秩序な開発がされないよう『日高村水害に強いまちづくり条例』を制定。

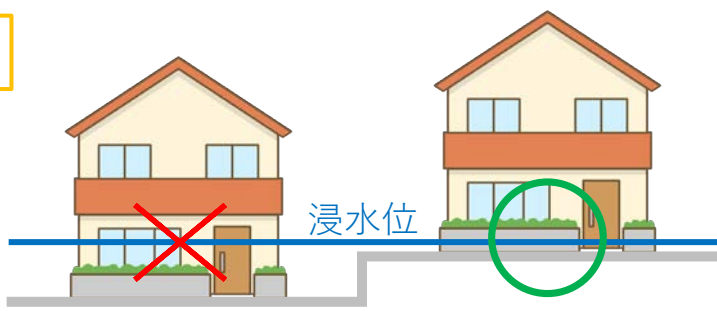
■ 輪中堤の建設



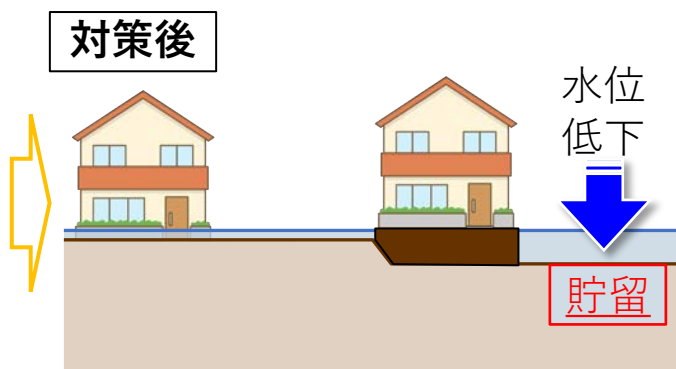
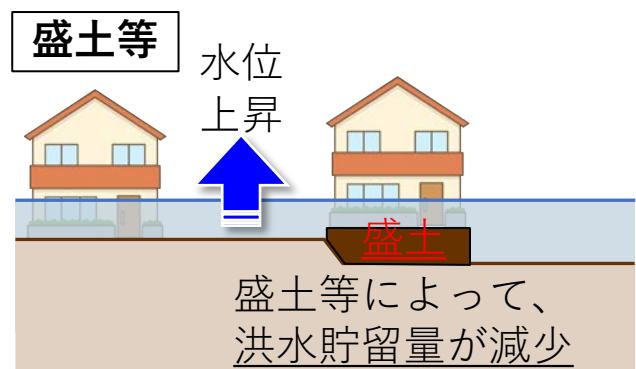
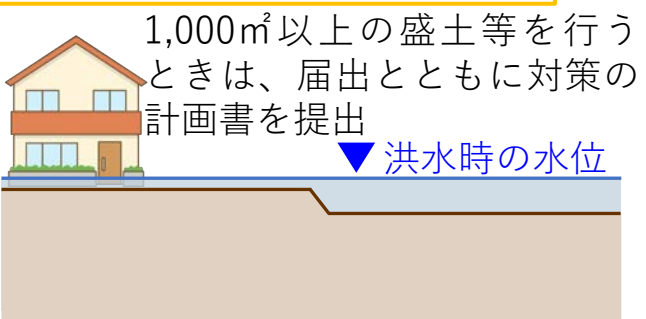
■ 日高村水害に強いまちづくり条例(令和3年3月)

「居室の床高規制」

浸水予想区域内で新たに建築物を新築・増改築するときは、居室の床高を浸水しない高さとする



「貯留機能の保全」



「浸透機能の保全」

